

# 働く障害者

## 竹中 ナミさんに聞く

働くことで人は認められ、誇りを持つ。ハンディのある人も同じ



たけなな・なみ 1948年神戸市生まれ。神戸市立本山中卒。ボランティア活動後、89年障害者自立支援団体「メインストリーム協会」(兵庫県西宮市)事務局長。91年就労支援の「プロップ・ステーション」創立。98年社会福祉法人として理事長に。著書に「ラッキーウーマン」「プロップ・ステーションの挑戦」。

### 期待されると誇りに

には、同じ目や目の不自由な人からだと感じて、会いに行き、生活ぶりを知った。障害児や福祉の世界を強力に学び、施設でのボランティア活動に参加する。

「娘は社会から丸抱えの手助けが必要、私がいなくてもどうなるのか、娘を支えてくれる人を増やさねばならない。それには社会的活動が必要」と見られていたチャレンジドが、支える側に戻ってもらう。そんな身勝手といえるおんかの一念した。

働く障害者を増やそうと、草の根団体「プロップ・ステーション」をつくった。ステーションとは「支えられる側から支える側に乗り換えるための駅のことです」。

「まだまま少ない。障害者の雇用率を高める政策はありますが、通勤原則。それを在宅勤務に考え方を切り替え、業務の発注率を高めれば、就労率は増えいく。」

日清製粉の協力を得て、パティエ菓子職人を目指す。障害者研修を始めて3年。

「私には社会から丸抱えの手助けが必要、私がいなくてもどうなるのか、娘を支えてくれる人を増やさねばならない。それには社会的活動が必要」と見られていたチャレンジドが、支える側に戻ってもらう。そんな身勝手といえるおんかの一念した。

「私には社会から丸抱えの手助けが必要、私がいなくてもどうなるのか、娘を支えてくれる人を増やさねばならない。それには社会的活動が必要」と見られていたチャレンジドが、支える側に戻ってもらう。そんな身勝手といえるおんかの一念した。

「私には社会から丸抱えの手助けが必要、私がいなくてもどうなるのか、娘を支えてくれる人を増やさねばならない。それには社会的活動が必要」と見られていたチャレンジドが、支える側に戻ってもらう。そんな身勝手といえるおんかの一念した。

「私には社会から丸抱えの手助けが必要、私がいなくてもどうなるのか、娘を支えてくれる人を増やさねばならない。それには社会的活動が必要」と見られていたチャレンジドが、支える側に戻ってもらう。そんな身勝手といえるおんかの一念した。

「今年には東京の研修会場から神戸と名古屋にも映像配信して、スイーツ作りの輪を広げた。パソコンだけでなく、稼げるものだったとしてもいいんです。でも、プロ目指すからには、一流の指導者を付けるのは同じこと」

「チャレンジドが社会仕事ができるモデルを作っていた。ゼロから1にする火付け役が私の仕事。10から100に広げていく段階になれば、制度化が必要です」

竹中さんのアスクの横には、ドラムなど本格的な米国のセットが鎮座。米国の使館から昨年「勇気ある日本女性」を授与され、そのお祝いパーティーで歌を披露したためここで練習に励んだ。ギター奏者で米国在住の弟の共演を楽しむことも。

音や長方形をほとんど認識しない長女だが、「私が歌う」と笑顔を見せられるんです。ええ表情なんですよ。」

「チャレンジドが社会仕事ができるモデルを作っていた。ゼロから1にする火付け役が私の仕事。10から100に広げていく段階になれば、制度化が必要です」

「チャレンジドが社会仕事ができるモデルを作っていた。ゼロから1にする火付け役が私の仕事。10から100に広げていく段階になれば、制度化が必要です」

「チャレンジドが社会仕事ができるモデルを作っていた。ゼロから1にする火付け役が私の仕事。10から100に広げていく段階になれば、制度化が必要です」

「チャレンジドが社会仕事ができるモデルを作っていた。ゼロから1にする火付け役が私の仕事。10から100に広げていく段階になれば、制度化が必要です」

「チャレンジドが社会仕事ができるモデルを作っていた。ゼロから1にする火付け役が私の仕事。10から100に広げていく段階になれば、制度化が必要です」

# 弱者を弱者でなくする

「ハンディがある人は働けない人だと、親や社会があまりにも決めつけていまいせなか働くことは社会の一員になること。他人に何かを期待され求められ、それに向って活動するのが人間としての生きがいでしょ。自分の存在が、誰からも期待されないことほどむなしいことはないと思う。働いて税金を納める手

この6月NHKの経営委員にも就いた。チャレンジドが働く手段としてパソコンが最適。入力業務やホームページ作り、あるいはイラスト制作などで活躍している人が出ています。京都には自分の会社を持ち、施設のベッド上にながら仕事をこなす人もいます。

自動車事故で頸椎を損傷した青年から、「毎日日曜でどんなに忙いこと分かるか、と言われてハッと

「彼が、お金で公平なんですわね」と言った言葉も忘れられぬ。障害者年金は上から

た。弱者に手当を支給するのが福祉といわれるが、休日や純粋な生活を強いることになり、考え方が違う。弱者を弱くなくしていくプロセスが社会保障のほうです。重度の脳性麻痺の青年が、母親の欲しがっていた包を買い、喜ばれた。ギフトが売れたからだ。

「下りてくると、今度は仕事で評価してもらっての収入。重みが違う。認められたことが誇りにつながっていく」

「社会を支えられていたチャレンジドが、支える側に回るよ」

16歳で同棲し、高校を除籍された非行少女。生活が一変したのは、長女の麻紀さん(37)を重度心身障害児とし

「おちゃんに話した」「この手がいたらおまは不幸になる。わが一緒に死んでやろ」と言われてバケリ、ソニアの父にそう言われる。その由に応えようと、パソコンの研修事業に乗り出した。

「私はパソコンはまるっきりタマだった。でも技術者や企業に応援を頼む集めは大得意。いわばつなぎのメリケン粉みたいなもんです」

ボランティアでパソコン操

「私には社会から丸抱えの手助けが必要、私がいなくてもどうなるのか、娘を支えてくれる人を増やさねばならない。それには社会的活動が必要」と見られていたチャレンジドが、支える側に戻ってもらう。そんな身勝手といえるおんかの一念した。

「今年には東京の研修会場から神戸と名古屋にも映像配信して、スイーツ作りの輪を広げた。パソコンだけでなく、稼げるものだったとしてもいいんです。でも、プロ目指すからには、一流の指導者を付けるのは同じこと」

「チャレンジドが社会仕事ができるモデルを作っていた。ゼロから1にする火付け役が私の仕事。10から100に広げていく段階になれば、制度化が必要です」

「チャレンジドが社会仕事ができるモデルを作っていた。ゼロから1にする火付け役が私の仕事。10から100に広げていく段階になれば、制度化が必要です」

「チャレンジドが社会仕事ができるモデルを作っていた。ゼロから1にする火付け役が私の仕事。10から100に広げていく段階になれば、制度化が必要です」